

平成 27 年度「第 1 回広島大学マスタース講演会」報告

広島大学マスタース会員 渡部和彦

平成 27 年度「第 1 回広島大学マスタース講演会」が下記の要領で開催されました。

演題：「東広島市の歴史（古代編） 秋国分寺をめぐって」

講師：藤岡孝司氏（東広島市教育委員会生涯学習部次長）

日時：2015 年 6 月 21 日（日）13:00-14:30

場所：東広島市中央生涯学習センター（3 階小ホール）

主催：広島大学マスタース、 共催：広大マスタース友の会

入場：無料

経過報告：昨年に引き続き、表記講演会を開催した。このたびは、講演会の演題を「東広島市の歴史（古代編） 秋国分寺をめぐって」とした。この演題は、「広大マスタース友の会」からの要望もあり、相談の上決めさせていただいた。

さて、講演の内容に関わることですが、聖武天皇から全国に国分寺の建立の命が発せられた、奈良時代は天平 13 年（741）であるが、それには、いかなる時代背景があるのか。そもそも、なぜ国分寺が、我々の住む東広島市内（西条町）に存在するのか。国分寺は、当時どのような役割を果たしたか。安芸国分寺は、各地の国分寺と特別な特徴は何か等々興味が尽きないところです。





安芸国分寺は、昭和 11 年塔跡が国指定となり、その後重要な建造物跡の発掘調査により追加指定がなされました。平成 11 年度から、平成 24 年度までの 15 年をかけて、安芸国分寺歴史公園が整備され、本年（平成 27 年）市民に歴史公園として開放されました。

講演の講師をお引き受け下さった、藤岡様は、安芸国分寺の発掘調査に直接関与され、その発掘資料等を学術論文として多くの報告書としてまとめられた考古学がご専門の方です。講演では、貴重な多くの資料を手際よく整理され、藤岡様ならではの豊富なご経験を基に、丁寧に説明をしていただきました。東広島市内でこれまでに発掘された文化財を中心に、旧石器時代から現代にいたるまでの歴史をわかりやすく説明された。

安芸国分寺に関しては、その建立の地として、西条の地が選ばれた背景を当時の社会的背景および地政学的な観点から説明された。また、安芸国分寺の特徴を解説された中でも特筆すべきは、この地での大発見であった。すなわち、大量の木簡やその使用目的が判明できる文字が書かれた土器・瓦等が奇跡的に発見され、それにより、国分寺の役割や建立年代を正確に特定可能となったとのことでした。この説明には、参加された多くの皆様が感動されたのではないのでしょうか。

藤岡様は、講演の終わりの部分で、立派に整備された広大な、「安芸国分寺歴史公園」のスライドを示し、この「安芸国分寺歴史公園」に多くの市民、そして子供たちに来てもらい、自分たちの郷土の歴史・文化を誇りにしてほしいと結ばれた。